

## ウェスタンオレゴン大学夏季英語研修

# Western Oregon University/Takaoka National College Intensive English Program for 2003

小林和子\* 清水克朗\*\* (写真)

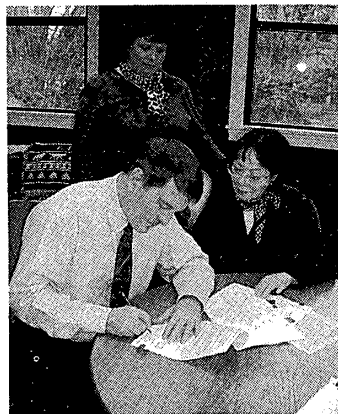


### 目次

1. はじめに
2. 事前活動
  - 1 WOUとの協議・合意
  - 2 参加者募集
  - 3 事前研修と渡航準備
3. ウェスタンオレゴン大学での英語研修プログラム
  - 1 スタッフ・支援体制
  - 2 施設・設備・サービス
  - 3 研修プログラム
  - 4 ホームステイ
  - 5 交流・ホスピタリティ
4. 事後活動
5. 終わりに

## 1. はじめに

高岡短期大学は、2003年3月、アメリカ合衆国オレゴン州の州立大学の一つウェスタンオレゴン大学（Western Oregon University, 以下 WOU）との間に大学間友好協定を締結し、2003年度から教育・研究交流プログラムをスタートさせることとなった。



友好協定に調印する Conn 学長  
(WOU 提供)

締結までの経緯, WOU の概要, 友好協定の内容については高岡短期大学紀要第 18 巻の活動報告「ウェスタンオレゴン大学との友好協定締結」で報告のとおりである。

本稿では、WOU と高岡短期大学との大学間友好協定に基づいて 2003 年度に実施された第 1 回夏季英語研修についてやや具体的な報告をすることとし、英語圏の大学と本学との新たな交流活動の第一歩について総括し、今後の大学間交流の発展に役立てたい。

## 2. 事前活動

### 2. 1 WOU との協議・合意

WOU と高岡短期大学間の友好協定は、さまざまな交流を展開できるよう包括的な学術交流協定（General Agreement）とし、早期に実現可能な交流プログラムから順次スタートさせることとなった。本学としてできるだけ早期に実施に移したい交流プログラムが夏季英語研修プログラムであった。WOU は日本の大学生を対象とした短期集中英語教育の実施については 10 数年以上の経験があり、また正規の留学生受け入れにもまた同大学生の海外留学派遣にも十分な知識と経験の蓄積がある大学である。本学の希望や事情を最大限取り入れた、「オーダーメイド型」プログラムを提供することができる大学である。

本学の学生を対象とする WOU の ESL（外国語としての英語）教育専門スタッフによる英語研修の基本的な枠組みは、包括的な学術交流協定とともに交わした「英語研修に関する覚書」で合意していたが、具体的な実施については、実施の有無も含めて毎年双方の合意事項を明記した契約書を交わす必要がある。

2002 年 3 月の協定校選定のための実地調査に参加した小林は、2003 年 3 月上旬に再度 WOU を訪問した。2 度目の訪問の目的は、英語研修プログラムを委嘱するにあたっての実務者レベルの協議を行い、プログラムの学習目標、日数・時間配分、学外活動の比重、毎日の課題の分量などについて本学からの希望を十分に理解してもらうこと、寮や食堂などの宿泊・生活施設、図書館・教室などの学習施設・設備などの研修環境を見学することにあつた。協定校を探すための前回の調査とはまた違う、きわめて具体的な作業になった。

おりしもこの訪問期間中に埼玉大学（WOU の古くからの協定校）の教育学部の学生を対象とする英語研修プログラムが実施されており、小林にも彼らの学内・学外プログラムへの参加・見学の機会が数多く与えられたことはおおいに参考となった。

このときの合意内容を基に、2003 年の第一回ウェスタンオレゴン大学夏季英語研修に関する個別の契約書案が作成され、数度の電子メールでのやりとりにより最終的な契約内容が合意され

た。同文書は内容的に① WOU が本学学生に提供する英語教育と付随するサービスの内容(研修期間, 授業時間, 教材, スタッフ, 寮・食堂・教室・図書館・スポーツ施設などの利用, ホームステイ・一泊旅行の計画), ②高岡短期大学の WOU に対する責任(最終参加学生数・寮の部屋のルームメイトの組み合わせの通知, ホームステイの申請書の記入・提出, 本学参加者の過誤による損害賠償の責任の所在), ③参加費用(2500ドル)とその支払い方法(参加費用の徴収・送金, キャンセルに関する一部支払い)の三つに区分される。

研修期間は8月20日～9月13日, 参加費用の送金は50%ずつ2度に分けて行い, 契約書の発効以後7月20日までのキャンセルの場合は10%, これ以後8月20日までのキャンセルの場合は25%のキャンセル料の支払いをすることが合意された。

しかし, 契約書を取り交わす段階になって極めて困難な事情が出てきた。一つはアメリカのイラク戦争とその報復の可能性による海外渡航危険度の高まり, もう一つはSARSの猛威である。通常の参加者側の事情によるキャンセルに対するキャンセル料の設定は十分理解でき, むしろ良心的なものを受け入れたが, これら本学の責任を超えた事情によるキャンセルの場合を予測しておく必要があった。このような場合にはキャンセル料を課さないとの文言が加えられ, 5月末最終的な契約書の交換にこぎつけたのである。

## 2. 2 参加者募集

WOU 夏季研修は本学の教育プログラムの一環として位置づけられるものであり, 単なるなる夏休み期間中の海外体験の機会の提供にとどまってはならない。WOU での英語研修はもとより, 事前・事後の活動も一貫した学習活動であることが学内で合意された。この研修は, 高岡短期大学本科の「特別講義(英語海外研修)」, または, 専攻科の「海外研修」という科目とし, 研修修了者には卒業・修了要件単位として4単位を認定することとした。事前研修・事後の研修レポートの提出にいたるまでの過程・活動の概要は表1に示すとおりである。全行程に小林が引率教員として同行することになった。

参加者募集は, 5月の連休明けとともに開始したが, イラク戦争やSARSによる海外渡航自粛ムードが高まりつつある時期に重なり, 富山県でも自治体主催のアメリカでの交流プログラムの中止などが報道されるなど, 逆風のなかでのスタートであった。

本来の募集締め切りを5月末まで延長し, 説明会のほかにも学内広報に努め, 最終的には15名の参加希望者があった。この数はWOUが実施するプログラムの基本最小参加者数とぴったり一致するものであった。15人に満たない場合でも実施は可能であるが, 一人当たりの参加費用が割高になるのである。ぎりぎりのところであった。

参加希望者の学科・コース・専攻別内訳はかなりバランスがとれたものとなり, 専攻科生3名(産業造形専攻2, 産業デザイン専攻1), 本科生11名(地域ビジネス学科国際・英語コース6, 経営コース2, 国際・中国語コース1, 産業デザイン学科2)となった。本科生11名のうち10名が1年生である。15人目の参加希望者が本稿の写真を担当する本学産業造形所属教員清水克朗である。

参加者には研修申込書と保護者の同意書のほか, 研修参加希望理由書の提出を求めた。研修参加希望理由書により, 各参加者の研修参加の目標・目的, 研修によせる期待, それまでの英語の学習経験, 英語力の自己評点(5段階評価), 伸ばしたい英語のスキルなどを詳しく述べてもらった。これらの情報は事前研修を行ううえでも大いに参考となった。ほとんど全員が英語のコミュ

ニケーションスキルの向上を第一の優先目標としてあげており、あわせてアメリカの社会や文化の理解・経験に強い意欲を示していた。このような情報は、WOU側にも全体的な情報として伝え、具体的な研修プログラムの計画をたてるのに参考としてもらった。引率者が参加者の真摯な願いがどのあたりにあるのかを把握することは大変重要なことである。

### 2. 3 事前研修と渡航準備

表1に示したとおり、事前研修は計5回実施した。参加者全員が集合できる時間帯がごく限られており、これ以上の時間を確保するのは難しい。事前研修は主として、アメリカ・オレゴン事情の理解、WOUでの学習・生活環境の理解、渡航の準備におかれたが、これらに先立ってすべきことがあった。それはWOUから送付された詳細なホームステイ申請書への記入である。

ホームステイ申請書を早急に完成させ、6月半ばにはWOUに郵送しなければならない。申請書は3枚にわたり、①生年月日・氏名・住所、所属学科・コース、趣味・特技などの基本的情報、②具体的な質問への回答(家族構成の希望、ペットの好み、宗教上礼拝の必要、喫煙習慣の有無、アレルギーの有無、摂取不可能な食品のリストアップ、特別な心身の事情など)、③ホストファミリー引き受け予定者に対する自己紹介文の作成、④ホームステイプログラムにあたって遵守すべきルールの提示(ホストファミリーの家のルールの遵守、国際電話・インターネット回線の使用についての合意、参加者の荷物の自己管理責任、事故や争いが起きた時のWOUへの報告・連絡の義務など)の範囲にわたっている。特に④に示された項目は学生にとってはかなり難しい文章で、これらの完全な理解が求められているのである。この申請書もまたWOUと参加者との契約である。提供した情報はすべて真実であり、ここに提示されたルールを遵守する旨の文の後に、本人および、21歳未満の場合は保護者の署名で申請書の完結である。契約社会アメリカをここでも痛感する。

第2回以降の事前研修はアメリカの社会文化事情、オレゴン事情にあてられた。小林が用意した資料による説明のほか、数グループにわかれ、アメリカの生活の基本情報(度量衡、貨幣単位、気温の測定法—摂氏と華氏の換算法、衣類や靴のサイズ表示など)を探し出し、皆で共有する方式も取り入れた。渡航準備のうち、パスポート申請は個人が行うことにした。パスポートは出国・入国において要求される「個人の責任」の基本だからである。また出入国カードも各自記入するよう指導した。

アメリカの航空機・空港におけるチェック体制は2001年9月11日の同時多発テロ以後とりわけ強化されており、渡航の準備においてはアメリカが要求するルールの理解に最大の注意をうながした。とはいえ、海外渡航が初めての学生がほとんどであるため、このあたりの厳しさを真に理解させることは困難な作業であった。

直前研修の最後に行われた結団式においては水島副学長からの訓話ももらった。副学長自身の学生時代の短期英語訓練セミナーへの参加の経験がその後の英語のベースとして大きかったこと、参加学生はWOUへの派遣第一期生としての誇りをもち、大いに研修を楽しみ、有意義な成果をもって戻るように、との激励の言葉があった。

表1 WOU英語研修スケジュールの概要

日時	活動項目	活動内容
5月8日(木)	募集説明会	・実施要項 ・日程表 ・参加申込書 ・保護者同意書 ・参加希望理由書 の配布
5月22日(木)	申込み締め切り	・参加申込書 ・保護者同意書 ・参加希望理由書 の提出
5月29日(木)	事前研修:ホームステイガイダンス	・ホームステイ心構え・準備 ・Homestay Application の記入について (提出締め切り6/12)
6月12日(木) 14:40～	事前研修	・米国・オレゴン事情の学習 ・ホストファミリー決定用身上書提出
26日(木) 14:40～	事前研修	・研修中の注意事項 ・研修授業について ・寮の生活について
7月 31日(木) 13:00～	事前研修 渡航手続き開始	・旅行の準備・渡航手続きについて  パスポートの申請は各自の責任において行う。6月末までに完了。
8月12日(火)  13:00～	直前研修 結団式	・渡航準備最終確認 ・保険の加入 ・副学長の訓話
8月20日(水)	成田出発	WOU到着
8月20日(木) ～ 9月12日(金)	英語研修プログラム開始 英語研修プログラム終了	歓迎会・オリエンテーション ～ 歓送会
9月13日(土)	ポートランド出発	
9月14日(日)	成田到着	
10月上旬	事後活動	レポート・アンケート提出

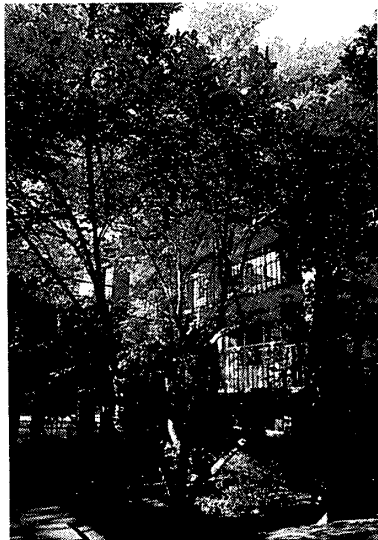
### 3 ウェスタンオレゴン大学での英語研修プログラム

#### 3.1 スタッフ・支援体制

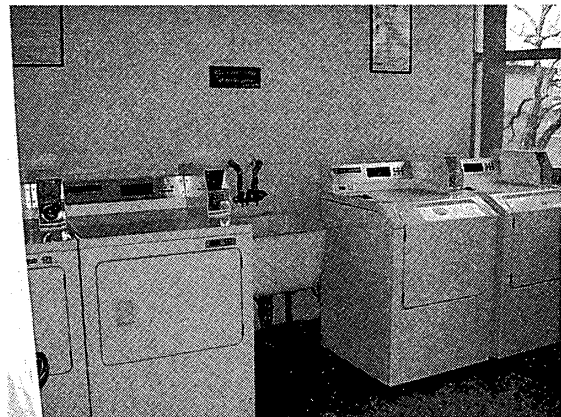
WOUの英語研修プログラムは同大学の国際部と学外教育部が協同で実施する事業であり、基本的枠組みは同大学の常勤のスタッフにより準備される。しかし、具体的な日々のプログラム運営のために計5名のプログラム専任スタッフが特別に任用された。プログラムディレクター1名(Michele Miller)、ESL(外国語としての英語)教育専門の教師2名(Gary FallowとMark Fettke)、アシスタント2名(Brooke SnellingとSayaka Fukahori)である。全員熱心でかつ親身になって対応してくれる人ばかりであり、彼らの役割分担の明確さと互いの連絡・連携の密なことは驚嘆に値する。総勢15名のプログラム参加者に5名のスタッフはきわめて贅沢な条件である。WOUの現役学生である2名のアシスタントは、われわれと同じ寮に住み、教室での授業以外のすべての学外活動・レクリエーション活動のリーダーであり、移動時の運転も2人の仕事である。3度の食事にも必ず同伴し、英語のみを使う環境を完結してくれた。どのスタッフも皆に慕われ、全員ファーストネームで呼びかけるあいだがらであった。

#### 3.2 施設・設備・サービス

WOUのキャンパスはその美しさで有名である。特に、夏には芝生や樹木の緑が濃く、実に素晴らしい環境である。学生の週日のキャンパス生活のベースは寮である。WOUは第1学年生には学内の寮生活を原則として求めており、キャンパスには大小の寮が8棟ほどある。我々はそのうちのひとつButler Hallに居住した。この学生寮は3階建て30教室のこじんまりとした規模で、各部屋は学習・生活室と寝室、シャワー室、洗面・トイレからなる。定員3名のところに2名が暮らしたので、スペースはかなりゆとりがあった。毛布、シーツ・枕カバー、バスタオル・フェイスタオルが備えられている。水曜日にはシーツ・タオル類が毎週交換され、洗面所やシャワー室の清掃サービスも与えられた。タオル類は週に7組与えられ、十分すぎるほどである。部屋の安全にも十分な配慮がなされ、入室は自分の暗証番号を入力するカード式による。1階には広々としたラウンジがあり、ソファ、テレビ・ビデオが備えられている。



Butler Hallの中庭



Butler Hall 2階ランドリー (WOU 提供)

日に3度利用する食堂 (Valsetz Dining Hall) は我々が住む寮の2階の渡り廊下でつながっている大きな建物である。WOUの食堂の充実ぶりは大学には稀な注目すべき水準である。定食ではなく、デパートやショッピングモールによく見られるFood Court方式である。つまり、暖かい料理を出すコーナー、サンドイッチバー、サラダバー、ピザ、デザート、飲み物の各コーナーがゆったりと配置され、利用者はこれらから自由に選択し、最後にレジでプリペイドカードにより清算する。広々としたダイニングが大小いくつももある。夏期休暇中であり、通常の学生の姿はあまり見られないが、スポーツチームの合宿のメンバー、WOUキャンパス内にあるオレゴン州の軍事学校と警察学校の学生もこの食堂を利用するため、きわめてたくましい人々の食事風景を毎日見ることになった。

われわれの通常の授業のためには人文・社会系の2教室があてられ、図書館、ジム、プールの利用も可能である。図書館のコンピューターのうち2台が日本語入力可能な設定となっており、本学学生の専用に指定された。これにより電子メールのチェック・送受信、インターネット検索などが可能となっている。図書館自体の閉館時間が午後5時(夏期休暇中のため)とかなり早く、授業や学外プログラムがきわめて忙しい毎日を送っている本学の学生にとってはもう少し図書館でゆったり過ごしたかったらと思う。

### 3. 3 研修プログラム

研修プログラムの全日程は表2に一覧するとおりである。この研修プログラムの目標は次の5点におかれた。

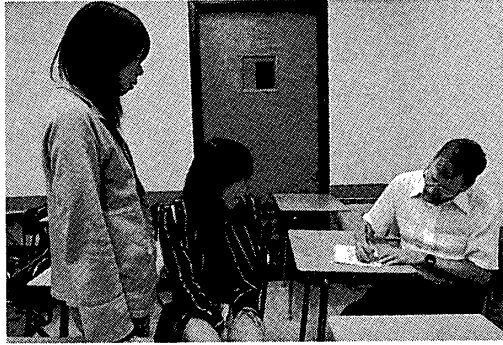
1. 英語でコミュニケーションをとる際の自信を高める。
2. 多様な状況においてネイティブ・スピーカーと話す機会をもつ。
3. 効果的なコミュニケーションの戦略を学ぶ。
4. 多様な文化的行事に参加することにより、アメリカ文化について学ぶ。
5. 大いに楽しみ、素晴らしい思い出をつくる。

研修第1日目はオリエンテーションにあてられ、学長のDr.Connの歓迎の辞で始められた。毎日の授業を担当するのがGary FallowとMark Fettkeの両氏である。クラスは2つに分けられ、午前と午後の担当が交代する。これらの授業の総時間数は50時間となった。小林はすべての授業と学外活動に参加させてもらった。1クラスは小林を入れて8人という小規模で、ペア・ワーク、グループ・ワークが適宜取り入れられる。平均して週に2日ほどは午後に学外活動が計画され、博物館見学、工場見学、伝統的な祭りやショッピングモールなどの訪問が含まれていた。教室での授業と学外活動が真に融合したものとなっている日程であった。

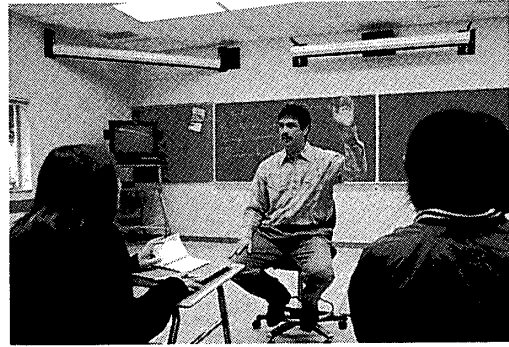
教材はWOUの名前の入ったバインダーに用意され、オリエンテーション当日に各自に配布された。活動日程に沿った内容と配列になっている。学外活動もまた重要な学習過程の一部であり、ある活動の前にはその準備がなされ(Warm-up)、その活動の翌日にはその感想を表明したり、意見を述べたりする活動が必ず含まれている(Debriefing)。訪問先のパンフレット等の資料も重要な教材とみなされ、バインダーの中に含まれている。

教師のGaryとMarkはともにESL教育の豊富な経験をもつ人で、実に素晴らしい教育技術の持ち主であるとともに、人間的にも魅力ある人々である。学生は毎日の課題として“Culture

Journal”と呼ばれる小さなノートに日々学んだこと、ホームステイ先で感じたことなど自由に文章にし、提出する。GaryとMarkはそれらの文章に、ていねいなコメントをつけて返却してくれる。時には学生が書いた文章と同じくらい長いコメントが寄せられ、そのコメントを読むことがまた読解の実践になるよう配慮されていた。



Gary先生



Mark先生

表2 研修プログラム全日程夜

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			8/20 WOU到着 入寮・夕食	8/21 オリエンテーション ミニゴルフ	8/22 授業9-12 授業1-3 ホームステイ開始	8/23 ホームステイ
8/24 ホームステイ	8/25 授業9-12 授業1-3 ゲーム	8/26 授業9-12 午後 レコン・ステイ ト・フェア	8/27 授業9-12 授業1-3 夜 ハーバキュー 野球観戦	8/28 授業9-12 授業1-3 夜 カフェ(Ric's) ドライブ・ イン・シアター	8/29 授業10-12 午後 産業博物館 ホームステイ開始	8/30 ホームステイ
8/31 ホームステイ	9/1 祝日 ホームステイ	9/2 授業9-12 午後 食品工場 見学 ディレクター宅 での夕食	9/3 授業9-12 午後 果樹園・ 農園訪問	9/4 州立公園 宿泊旅行	9/5 州立公園 宿泊旅行 ホームステイ開始	9/6 ホームステイ
9/7 ホームステイ	9/8 授業9-12 授業1-3 午後 スポーツ	9/9 授業9-12 授業1-3	9/10 ポートランド 美術館・ 市内探訪	9/11 授業9-12 授業1-3 オクトバー・ フェスト	9/12 授業9-12 授業1-3 送別会・ ディナー	9/13 WOU 出発 ポートランド 空港へ

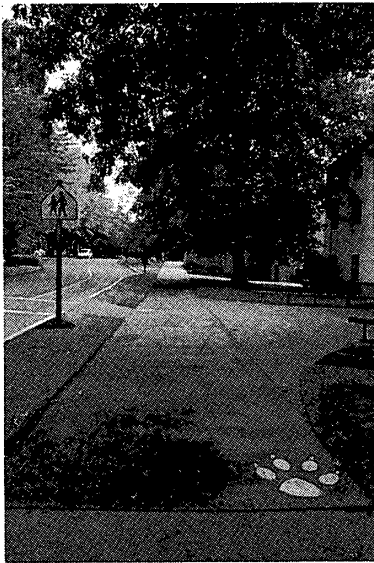




木造部分を含む歴史的な The Cottage



最新の寮 Heritage Hall



WOU のマスコット「狼」の  
足跡が歩道に



夕食後ビリヤードゲームを



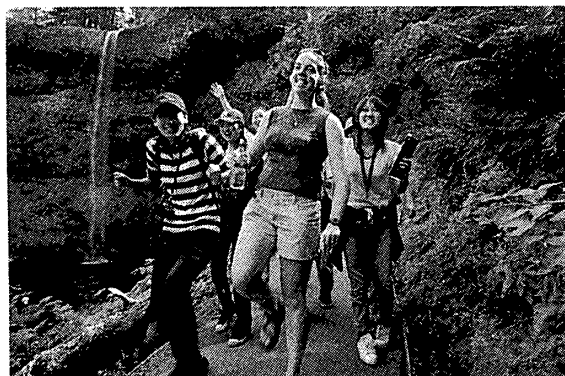
ヒップホップダンスに汗を流す



ドイツ系移民の祭り オクトーバ・フェスト



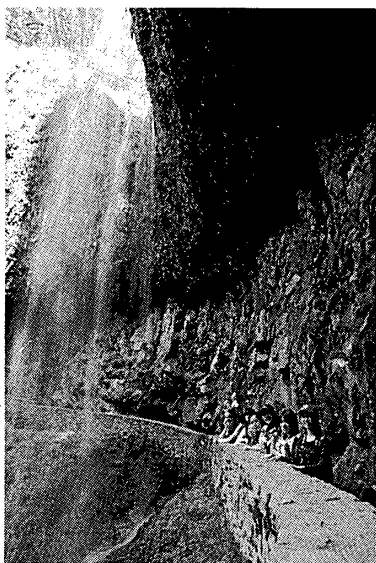
近くの果樹園で桃をつむ



州立公園 Silver Falls にて



夜空には星がこんなにたくさん



滝のしぶきをあびて



緑陰のランチ

### 3. 4 ホームステイ

ホームステイは毎週金曜日の夕方から週末にわたり、計3回10日間にわたって実施された。第2週目は月曜9月1日が祝日(Labor Day)のため、1日長いホームステイである。

学生を受け入れてくれたホストファミリーはWOUから車で30分～1時間程度の地域に居住する家庭で、受け入れ学生数は1人(4家庭)、2人(4家庭)、3人(1家庭)と3タイプがあった。学生は同一の家庭に連続してステイし、家族の一員としてファミリーとの交流を重ね、アメリカの家族のあり方、日常生活のあり方、地域社会のメンバーとしての個人、などについて多くを学び、さまざまな体験をした。

2. 3でも触れたが、WOUのホームステイについては経験に裏付けられたシステムが確立していると感心した。6月末までに提出した申請書に基づき、ホストファミリーとのマッチングが進められ、7月下旬にはどのような家族構成の家庭か、ホストファミリーの職業・年齢などを含む情報が学生個人に与えられた。出発前4週間頃である。中にはホストファミリーから直接電子メールを受け取り、「楽しみに待っている。」「皆とソフトボールできるように、自分のグローブを持ってきなさい。」などのメッセージを受けた学生もいた。

ホームステイ体験はほとんどの学生が、この英語研修のなかでも特に印象深い経験であったと述べている。日常のさまざまなシーンで決して飾ることなく、家族全員が皆を新しい家族として扱ってくれた。時にお客様扱いしてしまいがちな日本のホームステイのありかたと比較するとその普段着のやりとりがうれしい。帰国後もホストファミリーとの電子メールでのやりとりが続き、互いに近況報告する例も少なくない。



ホストファミリーとの食事



ホストファーザーの向日葵畑で



海岸で日光浴するアメリカの両親と

### 3. 5 交流・ホスピタリティ

WOUの研修プログラムについて特筆すべきは、プログラム全体に浸透しているその暖かなホスピタリティの精神とその表し方である。プログラム内容の質や担当教師の優秀さもきわめて満足すべきものであったが、参加学生のところをつかむさまざまな配慮が実に効果的に組み込まれている。

参加者リストやホームステイの申請書を送付し、出発をあと数週間後にひかえていた7月下旬、参加者全員宛にWOUのキャンパスの美しい絵葉書が送られ、スタッフ一同がわれわれの到着を楽しみにまわっているとの文章が添えられていた。グループとしてだけでなく、そのの一人一人に送られた個別のメッセージに感激しない者はいない。

歓迎オリエンテーションやプログラム最終日のフェアウェルパーティーも実に心なごむものであり、Conn学長もユーモアあふれるスピーチでわれわれを迎え、送ってくださった。フェアウェルパーティーにはホームステイ先の家族が招待され、そこで家族同士、学生と家族、新しい知り合いが交流できるように考えられている。いつの間にか仲良しになった食堂のスタッフ（WOUの学生）も別れがづらいと参加してくれた。

WOUのホスピタリティは何よりも、できるだけ多くの人々との自然な交流を大切にする精神に支えられている。



到着第1日目のピクニックデイナー



「私が主役！」バースデイを祝ってもら



寮の中庭でバースデイケーキを全員でいただく



Michele の自宅におよばれ、メキシコ料理！



食後はリビングでくつろぐ



フェアウェルパーティ：学長スピーチ



フェアウェルパーティ：素敵なビュッフェディナー



フェアウェルパーティ：終了証書の授与



フェアウェルパーティ：日本文化の紹介



フェアウェルパーティ：2人のアシスタントのスピーチ

#### 4. 事後活動

この研修が本学のカリキュラムの一部であることから、研修参加は評価の対象となる。学生のレポートは、この研修の最終的な成果である。帰国後10月の下旬に提出されたレポートは、それぞれかなり充実した内容のものであった。それぞれの切り口でオレゴンの自然・環境、ホストファミリーの人々との交流、WOUでの活動などとおして見、聞き、経験したことがまとめられており、英語の表現、コミュニケーションのとりかたの日米比較、アメリカの食文化、家族の関係、時間の使い方、などのほか、(学生の専攻分野である)生活用具・家具のデザインなどに焦

点を置いたものもあった。全員この研修に参加したことに喜びを表明するとともに、今後の学びのなかでもっと努力しなければと決意を述べている例が大変多かった。

アンケート調査も事後活動として忘れてはならないものである。WOUでの最終日には、WOU側が作成した詳細なプログラム評価アンケートがすでに実施されていたので、帰国後の本学のアンケートは、募集説明会、事前研修、WOUでの研修プログラム、生活環境、施設・設備、ホームステイのアレンジメントなどについて日本語で記入してもらった。また、次年度以降の研修参加者に参考になるようなさまざまな情報（持参したほうがよい品、現地で入手できる品、小遣いの額）、後輩へのアドバイスを自由に記述してもらった。これらは次年度以降の研修参加者の事前研修にも大いに役立てたい。

## 5. おわりに

本稿ではWOUと高岡短期大学間の友好協定が締結してから最初に実施された夏季英語研修について、準備から研修内容・体勢、研修後の活動までを紹介した。詳細に過ぎた記述も多いかもしれないが、本学の当該プログラムに関心をもつ学生、高校生、そして学外の地域の多くの方々に具体的な情報を共有していただきたいがためである。また次年度以降のプログラムの参考に役立つ記録という意味もある。

国際交流あるいは大学間交流というのは、お題目を唱えるだけでは続かない。具体的な顔と顔が見えるレベルの経験の蓄積にはほかならないのである。本学が新たに協定を締結したWOUは幸いこの分野での経験も豊かで、大学をとりまくオレゴンの人々もフレンドリーで自然もまた美しい。

第一回目の英語研修は多くの人々に支えられ無事終了した。引率者としては一人の落伍者もなく、事故もなかったこと、参加学生の満足度も大変高かったこと喜びたい。しかし、それよりもっと大きな喜びは、WOUのスタッフたちが、本学の学生の熱意、良識、規律、体力・精神力に強い印象をもってくれたことである。

この研修プログラムは次年度以降も実施されるが、参加学生にとってはたった一度きりの体験である。このことを忘れず、一回ごとのプログラムを大切にしていきたい。

## 参考 URL

1. <http://www.wou.edu/>
2. <http://www.oregon.gov/>
3. <http://www.oregonjapan.org/>